

事務局から

編集後記

▼「教育情報」108号特集「佐渡調査報告」はこれまでになく好評でした。佐渡の会員の手によって130冊以上普及していただきました。研究所には数冊ほどの残部で、増刷をといた声も上がりましたが、財政上無理という判断でとりやめました。

▼この佐渡調査でご指導いただいた境野健児さん(福島大学)に、「せっかくなので調査されたのだから、現地で報告集会を開いたらどうか」という提起を受け、早速現地の会員に相談を持ちかけたところ、実行委員会を組織し、それを開催することになりました。

期日：7月22日(日)13:30～16:30、テーマ：「地域の文化と開かれた学校づくり」
会場：佐渡羽茂地区公民館です。

▼これまでの「研究所通信」を衣替えし125号から新しく地域の教育情報を中心に編集することにいたしました。

「感想をお寄せ下さい。」

(内山)

▼関西電力・大飯原発の再稼働を6月16日、政府が決めました。その前日、「さようなら原発一千万人署名」の呼びかけ人の一人、大江建三郎さんは、「世界の目が向かっている時に再稼働すれば、なし崩しに突き進む。一つの再稼働が人類の歴史を決める(『朝日』、6月16日)と批判しました。

▼昨年6月に「東北大震災と子どもたち」の小特集を組みましたが、その後の新潟県内の多様な取り組みから、改めてこの特集を試みました。ご多忙のなか玉稿をいただきました皆さまに感謝申し上げます。東日本大震災から一年四カ月を迎えようとして、この問題は解決どころか一層の難問を提起し続けています。

▼原発「安全神話」は、学校教育でも具体的に、積極的に進められたことが明らかになりました。この事実に基づき、再びその神話普及に加担はできません。文科省は原子力の副読本を改訂するだけでなく、「原子力教育支援事業」そのものを見直すとしていま

す。「原子力推進の教育ではなく、事故が起きたときに身を守る対応も含めた総合的な内容に」と。期待しましょう。

▼学校で原子力がどのように教えられているかは興味深いことです。柏崎刈羽だけでなく、県内各地で明らかにしてほしい。

県立大学の学生やイギリス留学中の学生がフクシマに関わって活動していることに希望が持てます。

(内山)

にいがたの教育情報 No. 109

2012年6月30日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所
発行人 小林昭三
〒951-8116
新潟市中央区東中通1-86 山崎ビル
電話・FAX (025)228-2924
振替口座・00640-0-12332
Eメール kyoiku@triton.ocn.ne.jp
印刷所・神林印刷
TEL 0254-66-7959

本誌内容の無断転載を禁じます。